

<履修上の注意事項>

本科目の旧:「国際文化論」の講義映像を使用します。過去に「国際文化論」の単位を修得した学生も、本科目を履修することはできますが、「国際文化論」と同じ講義映像を視聴し、受講認証を実施する必要があります。また旧:「グローバルフィールドスタディ」で扱った内容と同じテーマも一部含まれます。その点に留意した上で履修してください。

※本科目の履修には、フィールド・ワークが必要です。海外でのフィールド・ワークを選択する場合は、学費とは別にスタディツアー費用がかかります。日本国内のフィールド・ワークを選択する場合は、ご自身でフィールド・ワークを計画し実行する必要があります。

※海外ツアーの参加には、実施に必要な最低人数の条件があります。実施の可否については後日お知らせいたします。

※履修登録後、フィールド・ワークの実施方法に関するアンケートを行います。必ずご回答ください。

※本科目を履修するためには開講一週目に自身が考えている海外+ビジネスアイディアの提出を求められます。

前期の科目終了時アンケート結果は[コチラ](#)から参照ください

科目コード:19406

授業科目名	担当教員名	履修区分	配当年次	開講期	単位	DP対応
グローバルアクティブスタディ	劉 源	G:選必 D:選必	1	春	2	準備中

科目概要

事業会社、NPOの別を問わず、経営者が他国あるいは外国市場へ成功裏に進出する際には、自社およびそのサービス・商品売り込むだけでは十分ではない。顔の見える存在として経営者自身が対象となる国や地域に入り込み、自らが信頼関係や人脈を構築する事も同等以上に重要である。

その際には、ビジネス上のパートナーを理解するだけでなく、対象国の政治・経済・社会・文化・歴史等の領域で「信頼できる友人、支援者」を多く得るための素養の習得が重要となる。

また、海外に関連するビジネスを立案する場合、相手国の現状に即したビジネスプランの作成や実行は成功に不可欠である。

こうした背景の下、本講座では、グローバル・ビジネスパーソンとしての総合力を身につけることを目的とする。

具体的には、科目は基礎編と応用編の二部構成となる。まずは基礎編では、国際交流や他国との人脈を構築するための方法論や知見を実践的に学び、その後、応用編では、国内もしくは海外のフィールド・ワークを通じて、相手国の実情に即したビジネスプランを実際に作成する。このプロセスを通じて、国際文化の理解力や異文化コミュニケーションスキル、そしてグローバル的な要素を含んだビジネスプランの作成能力を実践的に身につけることができる

	必須	推奨
事前学習科目		
事後学習科目		

学びの目的とゴール

本講座では、グローバル・ビジネスパーソンとしての総合力を身につけることを目的とする。

基礎編：

学生が自分の興味をもつ国を見つけ、その国の文化を深く理解することで、今後のキャリアの中でのコミュニケーションにおける教養・知見を身につける。自身の習慣や道徳が唯一無二のものではないということを理解し、自身の文化を多様な観点から見直す機会にもなることを期待する。具体的には、次のような素養の習得を目指す。

- ・ 他国の歴史、文化、政治、経済、社会に対し興味を持ち、積極的に情報収集して網羅的に理解する。
- ・ その理解に基づき、対象国の出身者と積極的な対話を行う事ができる

実戦編：

国内もしくは海外のフィールド・ワークを通じて、相手国の実情に即したビジネスプランの策定を実践する

国内もしくは海外のフィールド・ワークで、以下を学びの目的とする。

- ① 相手国の文化・ビジネスへの理解を深める
- ② 相手国で活躍日本企業、現地企業、個人の体験からその国の攻め方などグローバル・ビジネスの実情を学ぶ① 相手国の経済、社会、カルチャーなどを体感し、刺激を受けることができる
- ② 学生同士・セミナー講師・現地BBTコミュニティ、インタビュー先などとの交流によりネットワークを形成できる
- ③ 「ロジカルにビジネスプランを自分で組み立てる」という卒業論文にも通じる課題発表アプローチを学ぶことができる
- ③ ビジネスチャンスの捉え方など起業時視点から刺激を受け、それを活かして自らのビジネスプランを作成する

フィールド・ワークのメリットは以下の通り。

評価の観点	評価割合	評価の方法
講義視聴 発言、ディスカッション	40%	受講認証を参考に、講義における発言、ディスカッションの内容を評価する。 ① 各ゲストスピーカーの講義を視聴した上で、多様な視点から、政治・経済・社会課題における多様な意見や立場が存在する事に対する自分なりの意見を考え、Aircampusで発言する。また、国際交流・国際教育等において大切にすべき視座や世界共通の価値観等を考え、意見を述べる。 ② フィールド・ワーク前のビジネスプラン立案、リサーチを中心とするディスカッションへの発言およびその内容が、授業の趣旨を踏まえた投稿になっているかという観点から評価する。

		※特に価値ある情報収集、積極的ディスカッション、ビジネスプラン作成準備での発言を評価する。
フィールド・ワークの実施	30%	フィールド・ワークにおける参加の度合い、貢献度などを評価する。
最終発表	30%	最終課題の提出・発表状況、およびその内容を評価する。※提出必須

担当教員からのフィードバック方法	
エア・キャンパスを通じたフィードバック、および最終発表における直接のコミュニケーションを予定している。	

教科書	なし
参考図書	個別の書籍を指定はしないが、当該国に関する歴史、地理、経済、科学、地政学などに関する図書、文献を自主的にリサーチすることを求める。 異文化理解力——相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養 エリン・メイヤー 経営戦略としての異文化適応力 ホフステードの6次元モデル実践的活用法 宮森 千嘉子、宮林 隆吉

教員紹介
劉 源 経営学部 グローバル経営学科 専任准教授 大和PIパートナーズ株式会社 上海出身。大阪大学経済学部卒業、同大学院国際公共政策研究科博士後期課程を単位取得退学後、HSBCに入社、中国関連ビジネスを担当。2009年に現大和企業投資に移り、日本、中国、アジアのベンチャーキャピタル投資、プライベートエクイティ投資に携わる。 大谷卓也 経営学部 グローバル経営学科 専任講師 米国University of Puget Sound(BA in Comparative Sociology)、Pacific Lutheran University(MBA)卒。北米および国内にて留学・英語教育事業に携わった後、アクセントチュアで幅広い社会層のスキリングを推進するプロジェクトを支援。BBTでは、インターナショナル・スクール事業において新規拠点立ち上げや国際バカロレア導入を担当。BBTリーダーシップアクションプログラム修了(LAP18期)

回数	学習内容	学習課題

1	イントロダクション 本講座の狙い	本講座の狙いと学習内容について理解する。
2 ～ 3	異文化理解の基本的な考え方 異文化間コミュニケーションの問題解決フレームワーク	グローバルな環境で実績を上げるために、異文化について理解を深めるヒントやコミュニケーションに生じる問題解決のためのフレームワークを学ぶ。
4	卒業生の異文化体験に学ぶ：海外編	海外に飛び出して異文化圏に住み、働いた経験を持つ卒業生から、どのようにアクションを起こし、どういった経験につながったかを聞く。
5	卒業生の異文化体験に学ぶ：国内編	日本においても多様な文化的バックグラウンドを持つ人々が増える中、国内で異文化と関わる経験を持つ卒業生から、どのようにアクションを起こし、どういった経験につながったかを聞く。
6	中間ライブ講義：最新の中国事情アップデート	最新中国事情を学ぶ ライブ講義への参加・後日視聴
7 ～ 8	各自のビジネスプラン立案、リサーチ ●ビジネスプランの書き方など紹介 ●ビジネスプラン立案のためのリサーチ、情報収集 ●ディスカッションのための情報収集 ●市場視察についての情報収集	・講義への発言 ・ディスカッション課題についての発言 ・ビジネスプラン作成に向けた情報収集 ・ビジネスプラン仮案提出 ・AirCampus上でグループ作成 (グループワークを選ぶ場合)
9 ～ 1	企業訪問 ●現地進出日本企業・現地企業に学ぶ	国内もしくは海外フィールド・ワークにて実施 国内の場合左記項目は各自（もしくはグループ）で行う（企業訪問のほか、異文化に関連する活動

2	ビジネスセミナー ●現地のビジネスチャンス発掘方法を学ぶ	も可)
	市場視察(グループワーク) ●ビジネスプラン検証・修正	
1 3 ～ 1 5	ビジネスプラン発表+フィードバック ●ビジネスプランの最終化・発表 ●教員によるフィードバック	・フィールド・ワーク後、ビジネスプランの最終化 ・最終化したビジネスプランの提出 ・最終発表の実施（オンライン）

※開講や課題出題のスケジュールは、別途配布している配信スケジュールを確認してください。

受講上の注意

- 使用言語：日本語
- 本科目は海外のスタディツアーが予定されています。※選択可
※渡航にあたり心身ともにスタディツアーに参加できる状態であること。
- スタディツアー参加にあたり、別途費用がかかります。※別途お知らせします
- スタディツアー及び科目の内容は一部変更になる可能性があります。
- 履修登録後の流れについて
 ・履修登録後、フィールド・ワークの参加方法を選択できます。海外を選ぶ場合は海外のツアーに参加することになり、日本国内を選ぶ場合はご自身で国内フィールド・ワークを実施してもらいます。

安全管理に関する自己責任の原則

本科目は海外でフィールドスタディツアーを実施します。(選択可)したがって、日本国内と比較し、一般的に危険や病気、事故などに遭遇する可能性が高くなります。そのような可能性から自己の安全を守る為には、各自が最大限の対策を講じる必要があります。又、万が一、そのような危険な事態に遭遇した場合には、速やかに危険から離れることが求められます。

本学では、スタディツアーの準備と実施期間中、学生の安全を守るための配慮と施策、指導を可能な限り行います。しかしながら、本科目を履修する学生は各自が自分自身の安全に対し自覚と責任を持ち、適切な判断と行動を心がけてください。

海外安全情報

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

※履修登録後、参加に関する「誓約書」を提出いただきます。また、未成年の場合には保護者による「同意書」も提出いただきます。